

(別紙様式)

(A3判横)

平成30年度 学校自己評価システムシート (県立熊谷高等学校)

目指す学校像	これからの日本と世界に貢献できる人材を育成する、伝統を重んじ、活力に満ちた進学校
--------	--

重点目標	1 高い志を育成し、第一志望の進路を実現させるため、学力向上に向けた組織的な取組を実践する。 2 本校の特色や魅力を効果的に広報するとともに、県内小中学生と積極的な交流を図る。 3 伝統に培われた教育活動全般(学業・部活動・学校行事)を通じて、厚みある人間力をもったリーダーに育てる。
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	5名
	生徒	6名
	事務局(教職員)	10名

学 校 自 己 評 価					年度評価 (2 月 1 日 現 在)	
年 度 目 標					年度評価 (2 月 1 日 現 在)	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	次年度への課題と改善策
1	<p>○本年度は進学型単位制の完成年度である。これまでの熊高教育の良さを受け継ぎながら、単位制のメリットも生かし、次期学習指導要領への対応や大学入試改革を見据えた教育活動に取り組む必要がある。</p> <p>○平成29年度は国公立大学合格者が116名(現役58名)など、3年間を見通した進学指導は大きな成果をあげている。第2期スーパーサイエンスハイスクール(SSH)指定、骨太リーダー育成事業などを有効に活用しながら生徒の高い志を更に育成する必要がある。</p>	<p>○生徒の主體的な学習活動を引き出す授業の実践及び教員の指導力の向上</p> <p>○単位制や様々な指定事業を活用した生徒の高い志の育成及び第一志望を実現させる進路指導の充実</p>	<p>①単位制のメリットを生かし、きめ細かな学習ガイダンスを行うことにより、自主的に学ぶ姿勢を身に付けさせる。</p> <p>②生徒が主體的に考え参加する授業を展開し、生徒の学習意欲を高める。</p> <p>③授業公開期間における教員相互の授業見学、教員研修会を充実させる。</p>	<p>①平日に年次+1時間以上学習する生徒が各年次生全体の7割を超えたか(早朝、放課後含む)。</p> <p>②「生徒による授業アンケート」等で授業中に発言・質問をする生徒の割合が増えたか。</p> <p>③他の授業を見学した教員の割合が増えたか。研修会を実施したか。</p>	<p>生徒の主體的な学習姿勢や教員の指導力向上については評価できるが、生徒の授業外の学習時間の状況には課題が残る。</p> <p>①1年40.4%→21.0%、2年8.3%→6.3%、3年19.2%→66.9%だった。(5月→12月)</p> <p>②1年54.7%→58.6%、2年45.1%→46.1%、3年47.0%→47.9%だった。(H29→H30)</p> <p>③教員相互の授業見学期間がH.29は年間2回16日間であったが、H.30は年間3回40日間であった。職員研修会も実施した。</p>	B
			<p>①講演会・年次集会、キャリア教育等を通じて高い志を育成し、3年間を見通した組織的な取組により「最後まであきらめさせない」指導を実践する。</p> <p>②SSH事業、骨太リーダー育成事業等の指定事業を有効に活用し質の高い学びの場を多く設定することにより、生徒の学習意欲を高める。</p>	<p>①現役合格者数が国公立大学70名、うち難関国立大学10名を超えたか。</p> <p>②事業参加生徒の意識、意欲について、該当するアンケート項目の肯定的意見の割合が昨年度より上昇したか。</p>		
2	<p>○ホームページにおいて「赤薨」、「句熊」を中心に教育活動の様子を発信し、総アクセス件数が100,000件超であった。多様な情報ネットワークを利用し本校の良さを更に積極的にPRする。部活動については最新情報を随時掲載する必要がある。</p> <p>○保護者や小学校・中学校をはじめとする地域社会と連携し、本校の信頼を一層高めるとともに、本校で学びたいと強く思う中学生を増やす。</p>	<p>○積極的かつ効果的な広報活動</p> <p>○地域社会との連携推進</p>	<p>①最新の学校情報を迅速にHPに掲載するとともに、部活動の更新を含めた内容の充実を図る。</p> <p>②携帯メール一斉送信を有効活用し、必要な情報が確実に届くようにする。</p> <p>③マスコミ等へ本校の取組を積極的に情報提供する。</p>	<p>①ホームページの総アクセス件数が12万件を超えたか。</p> <p>②携帯メール一斉送信により必要な情報を随時送信したか。</p> <p>③マスコミ等で何件本校が取り上げられたか。</p>	<p>HPや一斉メールを広報および情報伝達ツールとして活用した。</p> <p>①学校HPへのアクセス件数は2/1時点で88,752件であった(昨年度比1,300件増)。紙媒体であるが「時代が熊高に追いついた」という斬新なリーフレットを効果的に活用した。</p> <p>②毎月初め及び緊急の際は随時、一斉メールを送信し積極的に情報発信した。</p> <p>③埼玉新聞、毎日新聞等を中心に34件取り上げられた(昨年度比約3倍増)。</p>	A
			<p>①ボランティアを含め、地域行事への参加・協力や小中学校との連携をさらに推進する。</p> <p>②学校説明会及び中学生対象の部活動体験を複数回実施し、生徒同士の交流を図る。</p>	<p>①昨年度以上に地域行事や小中学校行事への参加・協力ができたか。</p> <p>②学校説明会、部活動体験等に参加する中学生やその保護者が昨年度より増加したか。</p>		
3	<p>○「質実剛健」「文武両道」「自由と自治」の校風が学校生活に活力を与え人間力の形成と向上につながっているが、真に自立した「厚みのあるリーダー」としての生徒の育成という点において、まだ取組の余地がある。</p>	<p>○「学力」「体力」「良識」の調和のとれた、将来、日本の社会をリードする生徒の育成</p>	<p>①「学業・部活動・学校行事の鼎立」を目指し、学業を第一義に、さらに部活動や学校行事の充実に取り組む。</p> <p>②社会で活躍する人材を招き、「真のリーダーとは何か」を考えさせる。</p> <p>③早朝学習及び放課後の図書館開館延長や教室開放を活用した学習を生徒に強く推奨し、「学ぶ集団づくり」を進める。</p>	<p>①生徒が主體的に学校行事や生徒集会を運営したか。部活動に加入する生徒の割合が増えたか。</p> <p>②事後の感想やアンケート結果等で、社会で貢献しようとする志を持つ生徒が増えたか。</p> <p>③放課後に図書館や教室で学習する生徒の数が増えたか。</p>	<p>生徒が「学業・部活動・学校行事」に概ね取り組んでいた。</p> <p>①行事での主体性についてはまだ伸びしろの余地がある。部活動の加入率はやや減少し97.4%→95.5%(H29→H30)だった</p> <p>②「生き生き仕事人」アンケートで「高校時代に何をすべきかわかった、将来を考えるきっかけとなった」と回答した生徒82%→94%(H29→H30)と大幅に増えた。</p> <p>③放課後の図書館利用者数平均、1年47名→45名、2年76名→58名、3年64名→68名(H29→H30)で全体では微減した。</p>	B

学校関係者評価	実施日 平成31年2月14日
学校関係者からの意見・要望・評価等	<p>・自宅(授業外)での学習時間が少ないとのことであるが、他に何か打ち込めることがあればよいのだが、もしそうでなければ課題であろう。また、スマートフォンや携帯電話を生徒たちが使いすぎないように抑止力になるものがあるとよい。</p> <p>・熊高でのSSHの取組は素晴らしいと思う。生徒たちが頑張ってきたことは将来に生かせる。このように主体性を持って取り組んでくれれば、推薦入試などの際にも有利になるだろう。</p> <p>・生徒には、大学を選ぶ際に、ブランドで選ぶのではなく、自分が何を学びたいか、何をやりたいか、という視点を大切にして進路選択をしてほしい。</p> <p>・学校ホームページを充実させることも大切だが、今後は双方向で書き込む環境になっていくのではないかと思われる。したがって、ホームページよりもツイッターのようなSNSをもっと活用して情報発信すべきではないか。</p> <p>・小中学校や地域との交流はよく頑張っている。これからも連携を深めてほしいし、さらに多くの生徒たちが参加するようになるとうい。</p> <p>・生徒同士、仲間同士で勉強する場が校内にあるのでお互いに高め合ってほしい。</p> <p>・熊高は現役進学率があまり高くないというイメージがあるのか、塾の先生が中学生になかなか勧めてくれないと聞いている。しかし、実際はそんなことはなく、バランスのとれた良い学校であると思うので頑張ってもらいたい。</p>